

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690700032
法人名	社会福祉法人宇奈月福祉会
事業所名	グループホームくぬぎの里
所在地	富山県黒部市宇奈月町下立50番地 - 1
自己評価作成日	令和3年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所からは山並みや田畑など自然豊かな風景が眺められ、農作業の音や登下校する小学生の賑やかな声が聞こえる等なじみの暮らしを思い起こすことができるような環境であり、ご利用者が自身のペースで自由に楽しく生活されています。さまざまな家事作業を行う機会や季節に応じた行事に参加する機会を設けながら、一人ひとりの持っている力を可能な限り発揮でき、役割や生きがい、楽しみを持っていきいきと暮らせるよう支援しております。地域密着型サービス事業所として、これまで運営推進会議の有効活用や地域行事の参加を通じて地域住民や関係者とのつながりを密にしてきた状況とは違う中で、職員は、ご利用者やご家族に対して“コロナ禍だから”とできない理由を伝えるばかりではなく、どうしたらこれまでのようなことができるのかを考え、法人理念である“地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせます それが私たちの仕事です”の実現に向けて、諦めない姿勢を持って新しい行事の企画・実施や外出支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周りには田畑や山並みが見られ、昔から変わらない自然豊かな風景が広がっている。「地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせますそれが私たちの仕事です」の法人の理念をもとに、「感謝」「誠実」「協調」「熱意」「創造」の5つの約束を掲げ、約束を守るための行動基準を話し合い、職員は日々目標を持ち利用者と共に過ごしている。また、運営推進会議での意見交換を通じ、地域と共に意識している。今年は利用者と一緒に出向くことはできなかったが、職員が地域からの要望に応えるかたちで、法人内にある事業所の違いや季節ごとの取り組みなどを写真などを取り入れわかりやすく情報誌にまとめて発信している。事業所全体で常に前を向いて日々努力を積み重ねている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23, 24, 25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18, 38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36, 37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は法人共通のものとしており、事業所内の目に付く場所に掲げ全職員で共有している。理念を達成するために取るべき行動基準が具体化されており、その行動が日々の仕事の中に定着するよう毎日目標を定めて実践し、月末に実践状況に対する自己評価を繰り返しながら、日々の仕事に反映させている。	法人内の事業所代表が集まって作られた理念と行動基準は、浸透するよう事業所内で読み合わせをしたり、毎日の目標を手書きして貼りだしたりと工夫し、利用者も職員も笑顔になるよう各自の行動を振り返り、日々のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策の観点から、週2～3回の近隣の店への買い物は、職員のみで対応しているため、地域の方や知人と関わる機会がない。また地域活動、地域行事も全て中止となり、参加の機会がなく交流ができない状況である。秋頃から一定の条件のもとで紅葉狩りやドライブ、初詣に出掛けることができた。	地元の利用者が多いこともあり、様子の確認や施設に行ってもよいかの問い合わせ等があるが、新型コロナの影響で地域との交流は中止になっている。地域の方から質問に応えるかたちで「うなづき通信」を発行し、施設の理解を深め、地域とつながりを切らさないように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会の場や地域行事は全て中止となり、そのような機会がなく、運営推進委員会の場で認知症に関する資料を配布し説明する程度であった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の年間計画、目標、日々の活動報告や事故発生および再発防止策、ヒヤリハット事例等を報告し、会議ではそれらに関する意見交換を行い、その意見をサービス向上に活かしている。今年度は感染拡大防止の観点から、6回中2回が書面での報告となった。	隣接する2つの地区の自治振興会、老人クラブ・民生委員が参加している。コロナ禍で外部との交流ができなくなっているため、今までの活動を生かしながら事業所独自の活動(運動会、新年会、涅槃団子)や事故、ヒヤリハットの報告を行い、それに対する住民の方からの意見を活かし、法人や職員と検討しサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会において、事業所の現状を定期的に報告している。また、行政からも意見や情報を提供してもらっている。市へは年4回広報誌を送付して、生活状況や活動内容を知ってもらっている。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加や3か月毎に発行する広報誌を送付し、事業所の取り組みを報告している。利用者の相談や他事業所との連携等について話合う関係ができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、身体拘束適正化のための検討会を行い、日々のケアが身体拘束に繋がらないかを確認している。また研修を開き、身体拘束における弊害を職員間で学んでいる。日中は玄関や併設施設の出入りができるよう鍵はかけておらず、ご家族にも拘束をしない自由な暮らしを支えている事業所であることについて理解いただいているが、防犯上の観点から施錠については法人内で検討している最中である。	身体拘束適正化のための検討会を3か月に一度開催しており、指針の確認、事例検討、人権擁護委員の研修やスピーチロックの研修を企画している。運営推進会議において施錠について意見交換を行ったり、身体拘束をしないケアの取り組みについて、職員・地域住民と話し合う機会を設け検討を重ねている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の各事業所責任者会議の場にて、地域の人権擁護委員による講話があり、その資料を用いて勉強会を行い、職員への意識づけを行った。事業所内での虐待事例はない。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度について学ぶ機会を持つことはできなかった。個々の必要性についてもご家族に任せている現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、法改定時には、事業者側からの一方的な説明で終わらせることのないよう、ご家族に不安な点や疑問に思う点がないかその都度確認し、それらについて迅速に答えることで理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する本人・家族の意見や要望は、意見箱を設置したり、面会時や電話連絡時に伺ったりしている。利用者の思いや願いはありのままの言葉で個別日誌やシートに記録し、ケアに活かしている。	事業所内の変わりごと(職員の異動、事故やヒヤリハット等)をお便りや面会時、電話等でお伝えし、家族からの意見や要望を聞き取りしている。聞き取った意見等については個別記録に記載し職員で共有し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はこまめに事業所内の利用者状況や各職員の体調、思い等について代表者に報告し、共有している。また管理者は毎月法人全事業所の責任者会議に出席し、状況報告や提案を行い、運営について代表者から適切な助言をもらっている。職員へは毎月の会議や管理者・サブリーダーとの個別面談時に意見や提案する機会を設けており、やる気に繋げている。	管理者は日ごろから職員の体調に配慮し夜勤や勤務希望の相談を受けている。相談内容によっては法人全事業所の責任者会議で検討し、助言や物品購入等につながっている。希望があれば直接施設長との面談も可能で、意見や希望を伝える機会を増やしている。	利用者の状況の情報共有を目的とし記録について検討をされている。職員の意見を吸い上げ記録の整備につなげていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者とこまめに職員の状況について意見交換しており、個々の勤務状況や心身の状況について日頃から気に掛けている。全職員がやりがいを持って生き生きと働けるよう、定期的に業務の見直しを図り、職場環境の配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と協議する中で、職員個々の今後の成長につながると思われる施設内研修の参加を主に促している。また、新人職員に対しては現場の仕事を通じて育成することを重視しており、併せて指導する職員の成長もねらいとしている。コンサルタントを活用し、資質向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者と交流を図ることの大切さを伝えている。また、法人内のGHとの連携や運営の仕方の統一、職員の相互異動についても常に推進しており、サービスの質の向上につながるような様々な視点から管理者に働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には必ず事前調査に伺い、本人、家族、ケアマネに生活歴や趣味、長年の習慣等の焦点情報や現在の思い、要望を収集し、必要な情報をできるだけ多く調査書に記入し、情報の共有をしている。事前に1つでも多くの情報を把握していることで、利用開始時に本人、ご家族が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時や契約時には、ご家族の不安や要望、利用直前の複雑な心境を話すことができる場を設けている。また事業所内見学が十分に行えない中で、写真を通じて詳しい説明を交えながら、新しい環境で生活することへの不安が少しでも和らぐよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申請時や遅くとも事前調査の段階で、本人および家族の思いや要望と、ケアマネ等関係者からの情報を擦り合わせ、現時点でどんな支援が必要で最適なサービスは何かをきちんと捉え、地域性も含めてより適切と思われるサービスがあれば、勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対し「～してあげた」「先に～やっていた」という発言や行動はしないよう努めている。食事づくりや盛り付け、配膳、片付け、掃除や洗濯の家事全般においては職員だけで行わず、利用者と一緒に楽しく行うこととしている。趣味活動や各種行事の参加も共に楽しむ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の暮らしを支えているのは職員だけではなく、ご家族も共にという思いを共有し、長年築いてきた本人とご家族の絆を阻むことのないよう、常に裏方に徹する姿勢で状況報告や相談を行い、職員だけで結論を出さないよう努めている。また、ご家族の力を借りたい場合は、遠慮せずお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、従来のように自由に面会や外出ができない中、窓越しでの短時間面会や自宅やペットの写真を撮ってくる、電話でのやりとりを増やす等しながら、これまでの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	コロナ禍の前は友人や知人らの来訪や訪問等があったり、なじみの場所に出かけていた。現在は施設の環境を活かし、窓越しの面会やドライブで自宅を見てきたり、知人に写真を撮ってきてもらいペットや自宅の様子を確認できたりと、関係が途切れないように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しておき、良好な関わりができるような場面を意図的に作ったり、相性が良くない関係性にある場合には関わりを回避させたり等、工夫している。日中はリビングやキッチン、食堂の共有スペースで体操やティータイム、趣味活動、調理、軽作業を展開し、利用者同士の関わりや助け合いが自然に生まれるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても、ご家族からの相談があれば応じている。また、本人の次の生活の場が決まった際には、関係者の要望に応じて電話や書面で必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には24時間の様子を記録できるシートを2週間継続して記入する事で生活リズムを把握している。日々の暮らしで、一人ひとりの発した言葉や行動などから思いや願いを把握し、個別日誌にありのままを記入し、職員間で共有している。それが困難である利用者についても表情等から読み取り、本人本位の姿勢で職員同士で検討している。会議前には職員全員に資料を配布し、ケース検討会議で意見交換し情報共有している。	思いや意向を把握するため、家族に記入してもらった事前調査書や、入居後2週間は24時間の様子を記録している。その中から職員が気づいたことをまとめた集約シート、私の願いシートなど職員全員に資料として配布し、カンファレンスで意見交換を行い検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査書や入居直後のシートを活用し、これまでの暮らしぶりや馴染みの人や場所、好みなどを把握し共有している。本人だけでなく、ご家族、これまでのサービス利用で関わってきた方々からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活表をこまめにかつ自由に記入して利用者の生活を総合的に把握し、共有できるようにしている。個別日誌は時系列に沿って一人ひとりの過ごし方や心身の状況、活動内容等の様子を詳細に記載し、現状の把握を行っている。特記事項はより分かりやすく記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアや個別日誌を通じて、毎月の会議で出された課題やケアの内容等話し合ったことをもとに計画を作成している。また毎月の会議用シートの「先月の振り返り」欄を活用して課題を放置することがないよう、早い段階で解決に取り組んでいる。本人がより快適に生活できるようどう支えたら良いかを家族や主治医と話し合っている。	毎月夜勤者以外の職員が参加し、利用者9名のケース検討会議を開催している。家族には更新時や変化がみられたとき事前に意向や意見を電話等で確認し、日々の様子やケアの振り返りをもとに会議用シートにまとめられた課題やケア内容について話し合い、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には職員がどのような場面に接し、どう捉えどのように関わり、どう変化したか記載することを徹底している。医務的な事項や普段とは違った言動、持っている力が発揮できた場面やご家族等と関わった時の状況は、一目で分かるよう色分けする等して記載することで情報共有しており、日々のケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、特にご家族の状況や緊急の度合いによって、受診等事業所が出来る範囲内で最大限の対応ができるよう取り組んでいる。コロナ禍においては昨年度のように柔軟な取り組みが行えないのが現状である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの関わりの中で地域資源はある程度把握できているが、感染対策によりそれらの地域資源を存分に活用することはできなかった。地域の理美容院に来てもらい個々の希望に沿ってヘアカットをしたり、馴染みの場所を車から降りずに見てきたりする等、最低限の支援はできた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に説明し、主にご家族の要望にて主治医をどうするか決めている。協力医へは休診日や時間帯を問わずこまめに状況報告や相談を行い、速やかに指示や助言をもらっており日頃から良い関係を築いている。他院へ受診の場合は原則ご家族の対応としており、日頃の状況や相談事項を別紙にまとめて持参していただいている。	主治医について契約時に本人・家族の希望を確認している。家族の希望により協力医がかかりつけ医になっている方が多いが、家族の同行で他地域にあるかかりつけ医に受診されている方もいる。その際は日ごろの様子を書面にしてかかりつけ医に渡し、受診の結果は個別記録に記入し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員の配置はないため、曜日や昼夜を問わず直接協力医に報告・相談し、アドバイスしてもらいながら受診のための支援をしている。他事業所(法人内特養)に配置されている看護職員にも、応急処置が必要な場合には協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が予測される場合には職員も共に病院へ向かい、速やかに医療関係者へ本人の暮らしの様子やケアに関する情報提供を行っている。入院中は地域連携室とこまめに情報交換を行い、早期退院に向けての働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方についてご家族に説明し、利用者の心身の状態に応じて段階を追って家族やかかりつけ医と十分な話し合いを行い、状態によっては事業所ができる内容に限界があることも説明しながら、重度化した場合の方向性について思いを共有することに努めている。口頭で家族に理解を得ている状況であるが、重要事項説明書とは別に、具体的な内容について別紙で案内している。	契約時に重度化した際、入浴や排泄、食事等にどのような変化が現れ、利用者にとどのくらいの負担がかかるかを具体的に説明すると同時に、事業所ができること・できないことを説明している。家族はどのような状況が重度化とされるか、その後のあり方について考えておくことが大事だと理解しており、話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えて冷静且つ的確に対応ができるよう、全職員は年1回普通救命講習を受けている(今年度はオンライン研修)。また、急変時のマニュアルを即座に活用できるよう職員デスクに貼り出している。感染症流行期前は吐瀉物の処理手順についての研修(今年度はオンライン研修)や必要物品の点検を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の法人主体の消防訓練(夜間想定)は、感染拡大防止の観点から、地域住民代表の防災協力会の会長の参加や運営推進委員の見学は中止とした。後日、委員会で報告を行った。新人職員への指導についても、今年度は実施できなかった。	コロナの影響により法人内で行われた消防訓練は、職員のみが指定された避難場所まで行くという訓練を行った。新人職員が一緒に参加できなかったため、避難の流れなどを指導することができなかった。次年度は地震と火災時の避難訓練を予定している。	事業所の建つ場所は、ハザードマップでは水害が想定されている。水害時の避難訓練について実施できるよう検討されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へは、原則姓で呼びかけている。行動を促す際には「いっしょに～ませんか」「～お願いしてもいいですか」と声掛けすることで、指示、命令口調にならないよう徹底している。共同トイレ使用中はのれんを掛けたり、各種記録物等の個人情報の扱い方を徹底したりしている。	利用者への言葉づかいが指示・命令口調にならないようにNGワードを食堂に掲示し、常日ごろから意識するように努めている。3月にスピーチロックの研修が企画されており、一人ひとりの人格が尊重されるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、どんな些細なことでも自己選択、自己決定する場面を意図的に作り、一人ひとりの思いや希望が表しやすい環境を作っている。また本人の表情や動作、声のトーンから思いを汲み取り、意思表示が十分できない利用者に対しても、その思いに近づき、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体であることを前提に、毎日のミーティングでは職員側の都合や決まりを優先しないよう、一人ひとりの暮らしのペースに寄り添って、本人の思いや希望を尊重する支援ができるよう話し合っている。毎月の会議では利用者の快適な生活を最優先するために、業務のムダ・ムラ・ムリがないかを見直し、改善に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と協力しながら、本人の好みや習慣として行ってきたことを大切にし、身だしなみやおしゃれを楽しめるよう工夫している。感染対策のため馴染みの理美容院へ出掛けることができないため、決められた理美容院に来てもらい対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材は業者委託している。一部の利用者と職員でみそ汁作り、盛り付けや配膳、片付けを行っており、利用者の持っている力を発揮できるような場面を作っている。外食もままならない中で、青空会食や変わりご飯の日を設けている。誕生日には手作りおやつで祝ったり、季節ごとに梅干しやおはぎ、団子、干し柿などを一緒に作ったりし、食の楽しみを設けている。	利用者の力を発揮できる場として、みそ汁を職員と一緒に作っており、野菜を切ったり配膳したり等役割分担されている。昆布や乳酸菌飲料など要望があった場合は家族と相談し購入している。外食が難しくなったため、手軽に楽しめるインスタント食品など利用者の希望に沿ったメニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者から献立、分量、栄養価、カロリー等の一覧表を提供してもらい、バランスの良い食事を提供している。一人ひとりの食習慣や好みを把握し、体調や活動量、時間、形態、食器の工夫等、柔軟に対応している。また毎日の食事・水分摂取量を記録し、管理栄養士と情報共有し、栄養スクリーニングにも活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じたブラッシングの用具や方法で口腔ケアの声掛けや支援を毎食後行っている。義歯使用者は就寝前に義歯を外してもらい、手入れや消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの座位排便、座位排便ができるよう取り組んでいる。24時間生活表から個々の排泄パターンを把握し、そこから得られた情報をもとに生活表に印を付けて全員が一目で分かるようにし、適切なタイミングで言葉掛けとプライバシーの配慮に努めながら、個々に合った支援を行っている。	24時間生活表で一目で排泄状況がわかるようになっており、個々のタイミングにあわせた排泄介助が行われている。声掛け後もトイレに向かわない方には洗濯物の取り入れや部屋などに誘い機会を設けることで、トイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に乳製品を取り入れ、緩下剤をできるだけ使用しないよう工夫している。また様々な飲み物を常時取り揃え、その時の気分や好みに合わせて提供したり、毎食時には必ず汁物を提供したりすることで水分摂取量のアップに努めている。また、外散歩や館内散歩、午前・午後の体操等運動する機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	終日入浴可能としており、一人ひとりの好きな時間や心身の状態が良好なタイミングを見計らい、入浴を楽しんでもらっている。気に入った職員に入れてもらいたいとの要望もあり、それにも応えている。ご家族等からいただいた柚子、お茶、入浴剤でよりリラックスした時間が過ごせるよう工夫している。必要な方には入浴補助具を使用し安全に努めている。	希望の時間に入浴ができるよう、毎日浴槽にはお湯が張られている。利用者のデリケートな部分に配慮しその方の介助方法などを熟知した職員に入れてもらいたいという希望にも添うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの活動状況や生活習慣に応じて、体操や作業、外出等で日中の活動を高めるよう支援し、適度な休息や午睡の時間も確保できるよう工夫している。また、夕刻からは生活音を徐々に小さくし、照明の明るさや職員の声のトーンも下げて、穏やかな一日の終わりにつなげる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法、用量は薬情を回覧して把握し、職員側で薬の保管やセットを行っている。個々の状態に合わせて薬の形状や服薬の支援方法を工夫している。症状の変化について観察と記録を行い、主治医に情報提供して処方内容の調整、変更をこまめに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活や役割、楽しんできたこと、好きなことについて本人や家族から情報をもらったり、暮らしの中で発した言動を個別日誌に記載したりし、それをもとに一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせるような場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望はあるものの、慰問や祭り、買い物や社会見学等の外出は感染拡大防止の観点からすべて中止とした。また、ご家族や地域の方々の方々の協力による外出も同じように実施しなかった。敷地内の散歩や日光浴は天候を見ながら行っており、秋頃からは県内、市内の感染状況を見極めながら、少しずつ外出支援に取り組んでいる。	新型コロナ感染予防のため車を使用できる曜日が決まっている、車から降りない等のルールがある中、近くの牧場や自宅周辺のドライブに出かけている。気分転換を図るため敷地内の散歩を日課にされている方など希望に添った支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者が手元に小銭程度持ってはいるが、使う機会がない状況である。財布を肌身離さず持っている方もおり、どんな時でも暮らしにはお金が大切であると考えていることを職員も理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から小包が届いたり、ご家族に用事があったりした時など、本人の訴えや希望に応じて電話でのやり取りを支援している。また、遠方の家族には事業所だよりや写真と一緒に日々の様子を伝えたり、年賀状をやりとりする取り組みを行ったりしている。中には関わりを必要最低限に留めて欲しいとの家族もあり、心理的負担がないか確認することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭からは窓越しに明るい日が射し込み、いつでも木々や花が眺められる造りになっている。調理や掃除の音、テレビやラジオの声、会話等の自然な音を避けることなく生活音として取り込んでいる。また、食堂に季節の花を飾ったり、プランターに季節の野菜を栽培したりして季節感を採り入れている。24時間室温や湿度が快適に保たれ、居心地よい暮らしができるよう工夫している。小さな談話コーナーには観音様を置き、お参りやくつろぎの場として活用している。	食堂は中庭から大きな窓越しに温かい日差しが差し込む空間になっている。大きな窓のそばには椅子が置いてあり、食事後などは利用者が集まり話が弾んでいる様子がみられた。食堂の反対側には談話コーナーが設けられ、他の利用者からは見えづらく、人の目を気にせずゆっくりできるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下沿いやリビングにはベンチやソファを配置している。また風呂場の出入り口近くにはベンチを置き、気軽に休めるようにもしている。廊下の途中や和室にもベンチを置いて、気の合う者同士が会話したり、外の風景を眺めながら軽作業したりできるよう、居心地の良い環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と話し合っ、できる範囲で使い慣れた家具や寝具、好みの洋服等を自由に持ち込んでいただき、自宅での環境にできる限り近い生活空間を作り、居心地よく暮らせるよう工夫している。また、職員が効率化を優先して一方的な思いでレイアウト変更や片付けを行ってしまわないよう徹底している。	利用者が集まる食堂からは中庭を挟んでそれぞれの個室があり、プライベート空間を保つことができる。部屋には自宅で使い慣れた家具を持ち込み雑誌等も置いている。職員が一方的に片付けてしまうことはせず、自宅で過ごしていたような環境で過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所が職員の指示なしでも分かるような工夫をしたり、利用者と職員と一緒に食事づくりができる作業台を活用したり等、一人ひとりのできることやわかることが引き出せるような環境を作っており、自発的に意欲を持って動き出せる暮らしを支援している。安全な環境を作るためにヒヤリハット帳を日々活用し、速やかに対策を講じている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームくぬぎの里

作成日： 令和 3年 4月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	管理者やサブリーダーは、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けているが、それらを早期に且つ十分に反映しきれていない。	運営に関する職員個々の意見や提案を聞く機会を増やし、早期に運営反映させ、より良い職場環境のもと、ご利用者に良質なサービスを提供する。	①現時点で挙げられている職員からの意見を吸い上げ、ご利用者の状況についての情報共有を目的とした各種記録物の整備を図る。	2ヶ月
2				②意見や提案が活発に行えるよう、年1回の管理者・サブリーダーとの個別面談以外にも面談する機会を作る(半年に1回等)。	6ヶ月
3	13	水害・土砂災害避難マニュアルは整備されているものの、訓練の実施および新人職員への指導が行えていないため、不安がある。	新人職員も含め、全職員が定期的に訓練することで、災害時に冷静に避難誘導できる。	年間事業計画に水害・土砂災害避難訓練の実施を入れる(年2回)。また、マニュアルをもとに研修会を実施する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。